

愛灯園 だより

No.205

2013.07.15 発行

社会福祉法人 愛灯園
〒384-0805
長野県小諸市字高峯己1番地
TEL 0267-22-8177
FAX 0267-25-2233



超高齢化社会による財政的基盤も年々厳しさを増している中、昨年は介護報酬改定が行われました。その一方で家族関係や地域社会との関係も希薄化の一途をたどっており、施設・在宅問わず地域の高齢者福祉を支えていく為にも、特別養護老人ホームを中核とする地域包括ケアシステムの構築が必要ではないかと言われております。

特に六十五歳以上の低所得者、独居老人等、地域の新たな福祉ニーズに対応出来るような取り組みの姿勢や連携を取りたい、待機利用者の現状、虐待等緊急性のある利用者・家族等の情報交換を重ねて来ました。

施設においても利用者の高齢化・重度化が進み、医療と介護の専門性が求められ、安全性確保、利用者の健康管理面での体制調整を行い、主治医との連携、歯科医師の定期的な訪問診療等の包括的サービスの実施。又、介護職による疲の吸引等認定行為業務従事者認定証を多数の職員が取得、ターミナルケアに対する取り組みも積極的に進んできました。業務改善では給食全般を外部委託に切り替え、設備環境面では建物内外の危険箇所を見直し、地盤沈下で建物が傾いてしまった霊安室を取り壊し、職員宿舎を改修、使用用途の変更を行い、多目的に活用出来る様に改築し、ご家族の皆さんが使用出来る様に致しました。風水害に対する倒木の恐れがある古木の伐採等防風災害対策に取り組み、「安心・安全」について側面からの見直しも実施してまいりました。

利用者啓発事業では地元の方々には地域交流スペースを開放、世代間交流事業では小・中・高校生との交流、地域住民の方によるボランティア顧問等数多くの皆さんとのふれあい交流を実現。福祉専門学校生の介護実習やヘルパー資格取得の実習等の受け入れ、施設を活用していただきました。

そうした中で各職種間、事業所間の連携は、今後もっとも重要であり、継続して取り組む事が必要不可欠と思われまます。

福祉施設の役割として、「生活の質（QOL）の向上」を目指し、利用者の尊厳を守り、安心して暮らす事の出来る施設介護に積極的に取り組み、地域の拠点として、社会福祉の向上に寄与すると共に、社会的使命を果たして行く所存でございます。

超高齢化社会による財政的基盤も年々厳しさを増している中、昨年は介護報酬改定が行われました。その一方で家族関係や地域社会との関係も希薄化の一途をたどっており、施設・在宅問わず地域の高齢者福祉を支えていく為にも、特別養護老人ホームを中核とする地域包括ケアシステムの構築が必要ではないかと言われております。

特に六十五歳以上の低所得者、独居老人等、地域の新たな福祉ニーズに対応出来るような取り組みの姿勢や連携を取りたい、待機利用者の現状、虐待等緊急性のある利用者・家族等の情報交換を重ねて来ました。

施設においても利用者の高齢化・重度化が進み、医療と介護の専門性が求められ、安全性確保、利用者の健康管理面での体制調整を行い、主治医との連携、歯科医師の定期的な訪問診療等の包括的サービスの実施。又、介護職による疲の吸引等認定行為業務従事者認定証を多数の職員が取得、ターミナルケアに対する取り組みも積極的に進んできました。業務改善では給食全般を外部委託に切り替え、設備環境面では建物内外の危険箇所を見直し、地盤沈下で建物が傾いてしまった霊安室を取り壊し、職員宿舎を改修、使用用途の変更を行い、多目的に活用出来る様に改築し、ご家族の皆さんが使用出来る様に致しました。風水害に対する倒木の恐れがある古木の伐採等防風災害対策に取り組み、「安心・安全」について側面からの見直しも実施してまいりました。

利用者啓発事業では地元の方々には地域交流スペースを開放、世代間交流事業では小・中・高校生との交流、地域住民の方によるボランティア顧問等数多くの皆さんとのふれあい交流を実現。福祉専門学校生の介護実習やヘルパー資格取得の実習等の受け入れ、施設を活用していただきました。

そうした中で各職種間、事業所間の連携は、今後もっとも重要であり、継続して取り組む事が必要不可欠と思われまます。

福祉施設の役割として、「生活の質（QOL）の向上」を目指し、利用者の尊厳を守り、安心して暮らす事の出来る施設介護に積極的に取り組み、地域の拠点として、社会福祉の向上に寄与すると共に、社会的使命を果たして行く所存でございます。

超高齢化社会による財政的基盤も年々厳しさを増している中、昨年は介護報酬改定が行われました。その一方で家族関係や地域社会との関係も希薄化の一途をたどっており、施設・在宅問わず地域の高齢者福祉を支えていく為にも、特別養護老人ホームを中核とする地域包括ケアシステムの構築が必要ではないかと言われております。

特に六十五歳以上の低所得者、独居老人等、地域の新たな福祉ニーズに対応出来るような取り組みの姿勢や連携を取りたい、待機利用者の現状、虐待等緊急性のある利用者・家族等の情報交換を重ねて来ました。

施設においても利用者の高齢化・重度化が進み、医療と介護の専門性が求められ、安全性確保、利用者の健康管理面での体制調整を行い、主治医との連携、歯科医師の定期的な訪問診療等の包括的サービスの実施。又、介護職による疲の吸引等認定行為業務従事者認定証を多数の職員が取得、ターミナルケアに対する取り組みも積極的に進んできました。業務改善では給食全般を外部委託に切り替え、設備環境面では建物内外の危険箇所を見直し、地盤沈下で建物が傾いてしまった霊安室を取り壊し、職員宿舎を改修、使用用途の変更を行い、多目的に活用出来る様に改築し、ご家族の皆さんが使用出来る様に致しました。風水害に対する倒木の恐れがある古木の伐採等防風災害対策に取り組み、「安心・安全」について側面からの見直しも実施してまいりました。

利用者啓発事業では地元の方々には地域交流スペースを開放、世代間交流事業では小・中・高校生との交流、地域住民の方によるボランティア顧問等数多くの皆さんとのふれあい交流を実現。福祉専門学校生の介護実習やヘルパー資格取得の実習等の受け入れ、施設を活用していただきました。

そうした中で各職種間、事業所間の連携は、今後もっとも重要であり、継続して取り組む事が必要不可欠と思われまます。

福祉施設の役割として、「生活の質（QOL）の向上」を目指し、利用者の尊厳を守り、安心して暮らす事の出来る施設介護に積極的に取り組み、地域の拠点として、社会福祉の向上に寄与すると共に、社会的使命を果たして行く所存でございます。

超高齢化社会による財政的基盤も年々厳しさを増している中、昨年は介護報酬改定が行われました。その一方で家族関係や地域社会との関係も希薄化の一途をたどっており、施設・在宅問わず地域の高齢者福祉を支えていく為にも、特別養護老人ホームを中核とする地域包括ケアシステムの構築が必要ではないかと言われております。

特に六十五歳以上の低所得者、独居老人等、地域の新たな福祉ニーズに対応出来るような取り組みの姿勢や連携を取りたい、待機利用者の現状、虐待等緊急性のある利用者・家族等の情報交換を重ねて来ました。

施設においても利用者の高齢化・重度化が進み、医療と介護の専門性が求められ、安全性確保、利用者の健康管理面での体制調整を行い、主治医との連携、歯科医師の定期的な訪問診療等の包括的サービスの実施。又、介護職による疲の吸引等認定行為業務従事者認定証を多数の職員が取得、ターミナルケアに対する取り組みも積極的に進んできました。業務改善では給食全般を外部委託に切り替え、設備環境面では建物内外の危険箇所を見直し、地盤沈下で建物が傾いてしまった霊安室を取り壊し、職員宿舎を改修、使用用途の変更を行い、多目的に活用出来る様に改築し、ご家族の皆さんが使用出来る様に致しました。風水害に対する倒木の恐れがある古木の伐採等防風災害対策に取り組み、「安心・安全」について側面からの見直しも実施してまいりました。

利用者啓発事業では地元の方々には地域交流スペースを開放、世代間交流事業では小・中・高校生との交流、地域住民の方によるボランティア顧問等数多くの皆さんとのふれあい交流を実現。福祉専門学校生の介護実習やヘルパー資格取得の実習等の受け入れ、施設を活用していただきました。

そうした中で各職種間、事業所間の連携は、今後もっとも重要であり、継続して取り組む事が必要不可欠と思われまます。

福祉施設の役割として、「生活の質（QOL）の向上」を目指し、利用者の尊厳を守り、安心して暮らす事の出来る施設介護に積極的に取り組み、地域の拠点として、社会福祉の向上に寄与すると共に、社会的使命を果たして行く所存でございます。

超高齢化社会による財政的基盤も年々厳しさを増している中、昨年は介護報酬改定が行われました。その一方で家族関係や地域社会との関係も希薄化の一途をたどっており、施設・在宅問わず地域の高齢者福祉を支えていく為にも、特別養護老人ホームを中核とする地域包括ケアシステムの構築が必要ではないかと言われております。

特に六十五歳以上の低所得者、独居老人等、地域の新たな福祉ニーズに対応出来るような取り組みの姿勢や連携を取りたい、待機利用者の現状、虐待等緊急性のある利用者・家族等の情報交換を重ねて来ました。

施設においても利用者の高齢化・重度化が進み、医療と介護の専門性が求められ、安全性確保、利用者の健康管理面での体制調整を行い、主治医との連携、歯科医師の定期的な訪問診療等の包括的サービスの実施。又、介護職による疲の吸引等認定行為業務従事者認定証を多数の職員が取得、ターミナルケアに対する取り組みも積極的に進んできました。業務改善では給食全般を外部委託に切り替え、設備環境面では建物内外の危険箇所を見直し、地盤沈下で建物が傾いてしまった霊安室を取り壊し、職員宿舎を改修、使用用途の変更を行い、多目的に活用出来る様に改築し、ご家族の皆さんが使用出来る様に致しました。風水害に対する倒木の恐れがある古木の伐採等防風災害対策に取り組み、「安心・安全」について側面からの見直しも実施してまいりました。

利用者啓発事業では地元の方々には地域交流スペースを開放、世代間交流事業では小・中・高校生との交流、地域住民の方によるボランティア顧問等数多くの皆さんとのふれあい交流を実現。福祉専門学校生の介護実習やヘルパー資格取得の実習等の受け入れ、施設を活用していただきました。

そうした中で各職種間、事業所間の連携は、今後もっとも重要であり、継続して取り組む事が必要不可欠と思われまます。

福祉施設の役割として、「生活の質（QOL）の向上」を目指し、利用者の尊厳を守り、安心して暮らす事の出来る施設介護に積極的に取り組み、地域の拠点として、社会福祉の向上に寄与すると共に、社会的使命を果たして行く所存でございます。

超高齢化社会による財政的基盤も年々厳しさを増している中、昨年は介護報酬改定が行われました。その一方で家族関係や地域社会との関係も希薄化の一途をたどっており、施設・在宅問わず地域の高齢者福祉を支えていく為にも、特別養護老人ホームを中核とする地域包括ケアシステムの構築が必要ではないかと言われております。

特に六十五歳以上の低所得者、独居老人等、地域の新たな福祉ニーズに対応出来るような取り組みの姿勢や連携を取りたい、待機利用者の現状、虐待等緊急性のある利用者・家族等の情報交換を重ねて来ました。

施設においても利用者の高齢化・重度化が進み、医療と介護の専門性が求められ、安全性確保、利用者の健康管理面での体制調整を行い、主治医との連携、歯科医師の定期的な訪問診療等の包括的サービスの実施。又、介護職による疲の吸引等認定行為業務従事者認定証を多数の職員が取得、ターミナルケアに対する取り組みも積極的に進んできました。業務改善では給食全般を外部委託に切り替え、設備環境面では建物内外の危険箇所を見直し、地盤沈下で建物が傾いてしまった霊安室を取り壊し、職員宿舎を改修、使用用途の変更を行い、多目的に活用出来る様に改築し、ご家族の皆さんが使用出来る様に致しました。風水害に対する倒木の恐れがある古木の伐採等防風災害対策に取り組み、「安心・安全」について側面からの見直しも実施してまいりました。

利用者啓発事業では地元の方々には地域交流スペースを開放、世代間交流事業では小・中・高校生との交流、地域住民の方によるボランティア顧問等数多くの皆さんとのふれあい交流を実現。福祉専門学校生の介護実習やヘルパー資格取得の実習等の受け入れ、施設を活用していただきました。

そうした中で各職種間、事業所間の連携は、今後もっとも重要であり、継続して取り組む事が必要不可欠と思われまます。

福祉施設の役割として、「生活の質（QOL）の向上」を目指し、利用者の尊厳を守り、安心して暮らす事の出来る施設介護に積極的に取り組み、地域の拠点として、社会福祉の向上に寄与すると共に、社会的使命を果たして行く所存でございます。

これからの行事予定

7月

- ・供養塔緑日・小諸高校文化祭招待
- ・合同誕生会・リハビリ教室
- ・介護者教室（法話）

8月

- ・神社祭緑日・盆踊り、花火大会
- ・合同誕生会・リハビリ教室
- ・介護者教室（家族の体験談）

9月

- ・地蔵尊緑日・敬老の日家族会
- ・合同誕生会・リハビリ教室
- ・介護者教室（相談員の話）
- ・小学校運動会招待
- ・芦原中学校文化祭招待

☆職員紹介☆

センター看護師
小林 一子

6月10日よりセンターの看護職としてお世話になっております。今まで、小児科・内科の開業医での仕事が長く、介護にはわずかな経験しかありません。スタッフの皆様方には、日々ご迷惑をお掛けしている事と思っております。早く環境に慣れ、利用者の方々と関われる様努力致します。ご指導ご鞭撻をお願い致します。

ご協力ありがとうございました

平成25年 4月 1日以降平成25年 7月15日までの協力者の方々を掲載させていただきました。紙上をもってお礼申し上げます。

- 「語りの会」ゆい様・林歯科様・関医院様・高橋純子様・山口幸枝様・湯本征一様・中山千弘様
井出ボランティア事務所様・野岸小学校様（ボランティア委員・2年生）・高橋講治様・酒井信敏様

いい日、いい日
毎日あった介護
ありがとう

介護をされている、ご家族・専門職へ暖かく感謝の気持ちを伝えていくために、毎年11月11日が「介護の日」に制定されました。

社会福祉法人愛灯園もこの「介護の日」に賛同しています。

長野県「介護の日」普及実行委員会

社会福祉法人 愛灯園

法人本部 〒384-0805 小諸市字高峯己1番地

- 特別養護老人ホーム
- ヘルパーステーション
- 短期入所生活介護所
- 介護支援相談所

〒384-0805 長野県小諸市己字高峯 143-1 番地
TEL 0267-22-8177 FAX 0267-25-2233

- デイサービスセンター愛灯園
- 〒384-0805 長野県小諸市己字高峯 143-1 番地
TEL 0267-24-0056 FAX 0267-25-2233
- 特定施設入居者生活介護事業所「グリーンライフ愛灯園」
- 〒384-0805 長野県小諸市己字高峯 173-1 番地
TEL 0267-26-0220 FAX 0267-25-2233

URL <http://www.aitouen.org> mail info@aitouen.org

編集後記

いよいよ夏本番です！暑い日が続きますが、皆様、体調を崩していないでしょうか？脱水になり易い時期ですので、水分をまめにとり、熱中症対策をしましょう！

5月の創立記念日・家族会においては沢山のご家族に、ご参加ご協力頂き、盛大に行う事が出来ました。有難うございました。

愛灯園だよりも、これからも楽しい出来事をお伝えして行きたいと思っておりますので、変わらぬご愛読を宜しくお願い致します。

表紙の写真：愛灯園玄關脇のサボテンです♪

創立記念日・家族会

5月3日

毎年恒例の、創立記念日・家族会が盛大に行われました。役員の方に祝辞を頂いたり、永年勤続職員の表彰があったり、ご家族と一緒に、楽しいひとときを過ごす事が出来ました。



素敵な着姿で、熱やかに踊って下さいました。利用者の中には、日舞を習っていた方もいて、手を動かして喜ばれていました。

ご家族と一緒にランチバイキング♪



いつも素敵な歌声を聴かせて下さる井出さん♪利用者の中には、すっかり顔馴染みになった方もいる様子です。懐かしい曲を、一緒に口ずさむ事が、皆さんの楽しみになっています。今後も、宜しくお願い致します。



日清さんより♪様々な行事食

日清医療食品チーフ栄養士 佐藤実也 様
愛灯園で食事提供をさせて頂くようになり、一年が経ちました。厨房で仕事をしている中で、利用者様からの「おいしかった」「ごちそうさま」などの温かい言葉に何よりも支えられています。春と秋に行われた家族会でのバイキングでは、皆様美味しく食べている様子を見させて頂き、とても嬉しく、達成感を得て終える事が出来ました。7月になり、暑くなってきました。日清医療食品では、季節の食材を生かし、夏を感じられる様なメニューを提供して行こうと思います。また、郷土食やコンセプトメニュー、行事食などの食事提供も行っていきます。これからも、毎日の食事を楽しみながら、美味しいと言って食べて頂ける様、日々努力していきたいと思っております。



春の小運動会

7月3日

毎年恒例の春の小運動会が開催されました。あいにくの空模様で、外で行う事は出来ませんでしたが、可愛い小学生達の競技に、皆さん夢中になって手や足を動かしていました！



料理教室



デイサービスでの料理教室
真剣に包丁で野菜を刻んでいます。やはり、主婦の皆さんはお手の物！！職員より上手に手際良く、料理して下さいませ。今日は、何が出来るかな？

歳時記 愛灯園

楽しいこといっぱい！
愛灯園の四季の行事をお伝えします。

ホームお花見

4月16日



春、木漏れ日の綺麗な日に、お花見へ出かけました。今年も見事に、綺麗に咲いた桜に感涙しました。

センターお花見

4月16～20日



ホーム付添い外出

6月27日



梅雨の時期でしたが、雨に降られる事無く、ハローアニマルにて、大・猫・ヤギ達の可愛い姿に、皆さん大喜び！お昼は、揚げまんじゅうで有名な「亀や」さんにて、美味しいお蕎麦やおうどん、天ぷらに舌鼓♪美味しそうに召しあがっていました。



3D眼鏡を掛けての映画鑑賞☆

小諸高校文化祭

7月7日

小諸高校野岸祭にご招待頂きました♪吹奏楽や管楽部の生徒さん達の迫力ある演奏に、とても感動して、泣いてしまったり指揮を取る利用者さんもありました。デイサービス利用者5名、職員3名で行かせて頂きました。有難うございました♪



愛灯園の熱中症対策

今年も暑い季節となりました。愛灯園では熱中症対策と致しまして、よしずの設置や、天窓にシートを設置する等の対策を行っています。また看護師による、熱中症予防ドリンクの作り方指導もありました。



グリーンカーテン
出来ると良いな！



吉で作った七夕飾り
今年は晴れて良かったわ☆

平成24年度決算報告	
社会福祉法人 愛灯園	
事業活動収支計算書	
平成24年4月1日～平成25年3月31日 (単位:円)	
勘定科目	決算額
事業活動収入	314,950,486
事業活動支出	344,616,927
事業活動収支差額	-29,666,441
事業活動外収入	10,869,660
事業活動外支出	11,908,179
事業活動外収支差額	-1,038,499
特別収入	3,933
特別支出	2
特別収支差額	3,931
当期活動収支差額	-30,701,009
前期繰越活動収支差額	291,573,046
当期末繰越活動収支差額	260,872,037
その他の積立金取崩額	20,000,000
次期繰越活動収支差額	280,872,037

平成24年度財産目録	
平成25年 3月 31日 現在	
社会福祉法人 愛灯園 (単位:円)	
資産負債の内訳	金額
資産の内訳	970,192,572
現金	121,189
現金預貯金	73,794,121
当座預金	47,969,280
債権・債権付託設備	658,968,179
土地	68,872,130
その他の固定資産	629,447,170
負債の内訳	146,703,104
支払金	12,679,276
預り金	3,839,194
収受金	1,130
貯留金等取入金	112,500,000
退職給付引当金	17,685,504
差引純資産	823,489,468



利用者の手作り作品紹介☆
可愛いウチワが出来上がりました♪
暑い夏も、これで乗り切れそうですわね！